

ハウス施設の台風対策

環境農業推進課

【台風接近前の対策】

風雨が強まる前に、よく見回り、以下のことを点検する。異常があった場合には直ちに修繕、対策する。

I. ガラス温室

- 1) 屋根部分及びサイド部分のガラスの留め金、ガラスとガラスの隙間（ズレ）は正常か。
- 2) サイドのガラス戸がレールから外れていないか。
- 3) 出入り口及びサイドのガラス戸がきちんとロックできるか。
- 4) 風で飛ばされた場合、ガラスを破損するものが近くに置かれていないか。

II. ビニルハウス、P Oフィルムハウス

ビニル及びP Oフィルムの破損、施設の倒壊は猛烈な南風による場合が多い。そこでハウスの南側を中心に防風、補強を行う。

- 1) ハウスの周辺に防風ネットを展張する。
- 2) ハウス屋根部分、サイド部分のフィルムを押さえているハウスバンドの「ほつれ」、「断裂」、「ハウスバンドフック（金具）」のひっかかり具合を点検する。2年目のハウスバンドは断裂しやすいので特に注意して点検する（画像1）。
- 3) ビニペットのスプリングおよびレールの「ゆるみ」、「外れ」及び「腐食」を点検する。特にP Oフィルムでは数年の展張の間にスプリングが腐食している場合があるため注意する。
- 4) 妻面の骨材を補強する
 - （1）アーチパイプを増設する（画像2）。
 - （2）筋交いパイプで補強する（画像3）。
- 5) 妻部から1スパン分（約2m）のハウス屋根に防風ネットを展張する（画像4）。

なお、風当たりが強い場所では妻面やサイド部分にも防風ネットを展張する。
- 6) フィルムの破損を防止するために妻面の谷部分をパッカー留めする（図1）。
- 7) 谷板を釘で固定しているハウスでは、端が浮き上がらないように、長目の釘を端に余分に打ち付けておく。



ハウスバンドフック

- 8) 木骨ハウスでは屋根の端をメ板留めする(図2)。
- 9) 谷柱に鉄筋すじかいを入れる(画像5)。
- 10) 差し込み式のパイプハウスでは、強風による浮き上がりを防止するために、杭を打って、針金等でアンカー固定する。
- 11) フィルム破損時の潮風害を想定して、タンクに水をためて動力噴霧器(停電を想定してガソリンエンジン式が望ましい)を準備しておく。
- 12) 重油タンクはしっかりと固定し、燃料コックは閉めておく。洪水により重油タンクが流される恐れのある場所では、必ずワイヤー等で固定しておく。



画像1 ハウスバンド、ハウスバンドフック
の点検は重要



画像2 アーチパイプの増設事例



画像3 筋交いパイプによる補強事例



画像4 防風ネットの展張事例

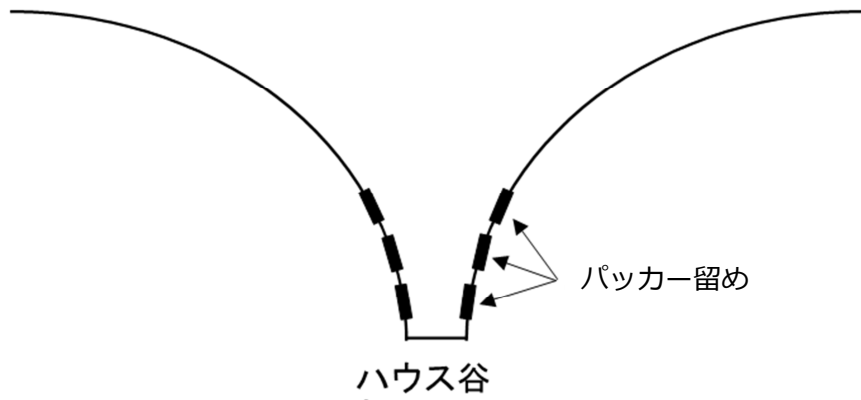


図1 ハウス南側妻面の谷部パッカー留め事例

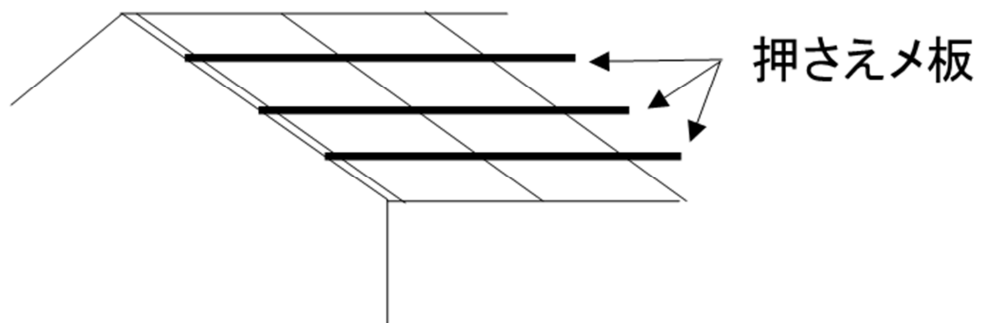


図2 木骨ハウスのメ板留め事例



画像5 谷柱の筋交い補強事例

【台風接近（通過）時の対策】

- 1) 台風の進行方向や風速をテレビ、ラジオで絶えず確認する。特に南風、西風（吹返し）には注意する。
- 2) 暴風時には施設に絶対近づかない。やむを得ない場合の施設外、内部の補強作業は必ずヘルメット等をかぶり安全に配慮する。
- 3) 暖房機や天窓減速機等の電源は切っておく。
- 4) インバータで回転数を調整できる換気扇を設置しているハウスでは、吸気シャッターを閉めて換気扇をゆるく作動させ、ハウス内の気圧を下げてビニルの浮き上がり、パタツキを防止する。なお、風が弱まれば直ちに停止する（ビニルの破損を防ぐため）。
- 5) 新しいビニルの場合には、風を入れないように努める。古いビニルの場合には破れやすいため、多量に風が吹き込むような場合には、積極的にビニルを破った方が施設の倒壊を免れる場合もある。

【台風通過後の対策】

1. 施設への対応

- 1) 台風通過後は早急に施設を点検し、破損箇所は修繕する。
- 2) 水濡れがないか確認後、切っていた電源を回復させ、換気システムを復帰させる。
- 3) 台風通過後は、ハウス内の気温の急上昇に留意し、停電時でもサイド部分などを遅れないよう空かして、換気する。ただし、閉め切ったハウス内が高温・高湿になっている場合、一気に換気して外気が内作に直接当たると、茎葉が傷むことがある。換気においては、まず天窓を開けてハウス上部の高温の空気を抜いた後、側窓を徐々に開ける。
- 4) ハウス内外の水を積極的に排水する（場合によってポンプ利用）。

2. 作物への対応

- 1) 作物への泥のはね上がりがひどい場合には、殺菌剤（疫病防除）等を用いて動力噴霧器で洗い流す。冠水後の薬剤散布は効果がやや劣る。
- 2) 風台風では潮風をあびる場合が多いため、散水して、茎葉に付着した塩分を洗い流す。なお、温度が上がり日射が強くなると被害が大きくなるため、できるだけ早く散水する。
- 3) 風によって茎葉が傷ついた場合には、殺菌剤を散布する。
- 4) 即効性の液肥を施用して草勢の回復を図る。葉面散布も効果が高い。